

背景

- ・国際会議（国連総会ハイレベル会合やG20会合等）では、AMR対策における研究開発の重要性が指摘されてきた。
- ・抗微生物剤の研究開発には、様々な基金や機関が取り組んでいるが、開発コストに見合う市場規模が見込めない等の課題が指摘されている。

概要

- ・2017年7月7、8日に行われたG20ハンブルグ・サミットの首脳宣言において、新しく国際的な枠組として、国際薬剤耐性研究開発ハブを設立することが合意された。
- ・当該ハブの役割としては、AMRの予防・治療・診断薬の研究開発を加速するために、以下を行うことが提案されている。
 - ✓ AMR研究開発に関する情報を収集・共有し、研究開発と投資の優先度を明らかにする。
 - ✓ 既存の公的・私的機関からの投資をより効率的に配分されるよう調整する。
 - ✓ 製薬産業や学界等の国際連携を促進する。
 - ✓ 開発資金等に対する、Push型の投資だけでなく市場開拓等のPull型の投資も増加させる。
 - ✓ 政策提言を行うとともに、一般への認知度の向上と定着を目指す。

参加国

- ・G20加盟国、非加盟国15カ国、非政府財団（ウェルカムトラスト、ビル＆メリンダゲイツ財団）が参加予定。
- ・参加国は、AMRに係わる研究開発事業やインフラに対する投資が求められる。

暫定理事会

- ・正式な発足までは、暫定理事会を設置し、本ハブの役割や業務計画、事務局設置等について議論する（第1回の暫定理事会は12月6、7日に開催）。
- ・事務局は、当初3年間はドイツに設置し、ドイツ政府の出資で運営する。